

---

---

# 市史資料室だより

発行 秦野市教育委員会 生涯学習課文化財班（市史資料室）  
TEL 0463-83-8380 FAX 0463-83-8381  
E-mail sisi@city.hadano.kanagawa.jp

平成 22 年 12 月発行  
第 4 号  
〒 257-0042  
秦野市寿町 3 番 12 号  
(はだのこども館内)

---

---

## 安楽院庄七資料調査の足跡

### はじめに

安楽院庄七は秦野市蓑毛の大山先導師（御師）の家に生まれたが、後年報徳仕法の指導者として認められるまでの経歴ははっきりしていない。それは庄七が主に遠州（静岡県）の報徳仕法の指導者として功績をあげ、遠州において安楽院庄七の研究がされてきた結果である。特に昭和 28 年（1953）に大日本報徳社から発行された鷲山恭平氏の著作『報徳開拓者 安楽院義道』が庄七の伝記書としては、最初の集大成とも言える。多く的人是これを参考に庄七研究をしてきた。したがって、遠州における庄七の資料、倉見村（掛川市）の岡田家や森町の山中家に残る資料から大日本報徳社の人たちが明治以後研究を進展させた結果である。

その反面地元秦野では大正 7 年（1918）の従五位贈位の際も子孫の存在がすぐには分からないような状態であった。安楽院庄七は故郷を捨て、他国で名を成したという評価でしかなかった。秦野で庄七の研究が進むのは、井上静男氏が教員時代小学校の頌徳碑に興味を持たれてからである。

### 井上静男氏の功績

井上氏は『秦野市史研究第 25 号』で「校庭に在る「安楽院庄七翁頌徳碑」文をぼんやり見ていた。ふと戦後の虚脱した教育観に触れるものがあつた。庄七研究の切っ掛けである。」と書いている。戦後の教育改革で混乱する中、教育者として自分自身を見つめ直し、新たな出発を庄七に求めた井上氏的心情が解るような気がする。井上氏は新しく教科となった社会科の指導方法をまとめた著書『社会科と郷土』（昭和 23 年発行）で郷土の歴史を取り上げ、その後『安楽院庄七小傳』（昭和 25 年発行）をまとめあげた。これが秦野における安楽院庄七の最初の研究成果である。ここで気付くのは、先にあげた鷲山氏の著書よりも井上氏のほうが早いのである。井上氏は何を参考にして庄七を調べたのか。もっとも『小傳』は研究書というより安楽院の時代を一人称で語らせた郷土教育資料的な意味合いを持つ著書である。発行は秦野中学 P T A の事業として、成人教育委員会が主となった一種の教育書である。その後、安楽院の研究は井上氏を中心に広がり多くの人たちが庄七の存在を知ることとなった。しかし、地元秦野での業績ははっきり

しないままであった。秦野では大正7年の贈位の後、翌年有志により頌徳碑が建立された。また没後百年にあたる昭和37年に市が主催した供養祭が実施された。新聞でも紹介され、同年9月号の市広報には井上氏の庄七の紹介記事が掲載されている。しかし、安居院庄七の研究が爆発的に進むことはなかった。庄七の資料は多くが静岡県内であり、日常的に研究することが難しかったからである。井上氏はその後も安居院研究を進め、公民館等での講座や報徳研究者サークルでの指導などに活躍された。市史編さん事業は昭和51年からスタートしているが、地元資料の収集を優先してきたため、庄七の資料収集には積極的ではなかった。

転機となったのは、平成16年福島県原町市（現在は南相馬市）で開催された「報徳サミット」に参加してからであった。この「報徳サミット」は掛川市や小田原市が中心となり、二宮尊徳にゆかりのある全国の市町村の首長が集まり、行政政策や教育方針に報徳仕法をどのように活用しているか等を発表しあうことを目的としている。秦野市がこの会に安居院庄七の生誕地を理由に参加している以上、安居院庄七の業績を調べ、秦野市と庄七の結びつきをはっきりさせる必要が認識され、ようやく資料収集が進んだのである。それには当時の山神生涯学習部長の積極的な指示があった。

### 『大日本帝国報徳』の調査

安居院庄七の地元での業績と思われる唯一の資料は、明治30年刊行の『大日本帝国報徳第44号』に掲載されている相州北秦横曾根村難村取直し相続手段帳である。この資料は以前からその存在は知られていたが、実物を入手できなかったために詳しい内容が不明のままであった。また庄七の関係資料は大日本報徳社が多くものを所蔵していることは判っていた。そこでそれ以外の新たな資料を模索したのである。安居院庄七の資料を持つ静岡県森町の報本社を調査すべく、所蔵者である山中真喜夫氏を訪ねたのは、平成18年8月31日であった。その日森町の図書館で森町史を閲覧し、資料編、通史編から安居院庄七の部分のコピーし、山中家では安居院庄七の肖像画、系図、極難取続安楽鑑、報徳作大益細伝記と草山貞胤の書簡などを写真撮影した。この極難取続安楽鑑に松本村泰翁寺（中井町松本）から庄七が遠州の岡田左平治等にあてた手紙文が写しで残され、秦野周辺での安居院庄七の動向が確認された。さっそく泰翁寺をお訪ねしたが、泰翁寺は明治期に火災に逢い近世資料は失われ、伝聞でも報徳及び安居院庄七のことは伝わっていないとの住職のお話であった。

その後、静岡県で報徳の研究者として活躍されている足立洋一郎氏に庄七の資料の存在をお尋ねしたところ、足立氏から雑誌報徳の復刻版が掛川市の報徳図書館に所管されている情報を得た。報徳図書館には、平成18年12月25日に調査を実施した。そして、相州北秦横曾根村難村取直し相続手段帳の内容が解ったのである。そこには安居院庄七が村民の相談を受け、8年以上前から気に懸けていた二宮尊徳の教えを蒙るために会いに行き、帰国後さっそく横曾根村民に立直しの趣法を説いた。これまで、借金の返済に困り、金の融資のために尊徳に会いに行ったという通説以外のことが判明したのである。地元貢献しなかったという庄七像を覆す新しい事柄であった。しかし、この資料は連

印の欄に人名が空白であるなど雛形的な要素もあり、実際に実行し成果があったのか疑問に思える面もあった。ところが、のちになって当時秦野市立図書館の学芸員大倉潤氏から伊勢原市史に安居院庄七の関連資料があるとの情報を得て、調べてみるとそれは小蓑毛村の役人が庄七の仕法指導により積み立てて得た 20 両を大山寺へ上納する願い書であった。横曾根村は小蓑毛村の別名ともいわれ、村役人の名前に一致する者もあり、庄七の報徳仕法の成功例が秦野地域で実証されたのである。このことを平成 19 年茨城県筑西市で開催された報徳サミットのパネルディスカッションで報告したが、その年の『報徳 12 月号』のあとがきで小さくコメントされていることを秦野の報徳研究者である横溝保氏が教えてくれた。

この新しい事実は秦野でも反響を呼び、JA 秦野では以前から安居院の紹介は数多くの刊行物でしていたが、平成 21 年に刊行された『安居院庄七』でこのことが記載されている。また蓑毛地区でもまちおこしに庄七を活用されている。

## 新たな疑問

以上のように『大日本帝国報徳第 44 号』に掲載された相州北秦横曾根村難村取直し相続手段帳には、庄七が天保 13 年 (1842) 横曾根村 (小蓑毛村) の立直しの指導をしたとあり、このことは『伊勢原市史資料編続大山』出典の関連資料で裏付された。すなわち、地元秦野での庄七の実績が証明されたわけで、これは遠州における最初の足跡である弘化 4 年 (1847) 下石田村 (浜松市) の救村指導より 5 年も前になる。鷲山氏の著書には万人講の事業で弘化 2 年 (1845) に曾屋村の道路・橋の改修につとめたとあり、すくなくとも、遠州での活躍の前に秦野での貢献があったのである。それなのに庄七が会得した報徳仕法を地元で十分に活用しなかった理由は何であったのか。それともまだ未発見ではあるが、庄七の秦野での仕法資料がどこかに存在するのだろうか。

庄七が弟の浅田勇次郎とともに、秦野を出るのは弘化元年頃といわれるが、実際はもっと前のようだ。それは「(前略) 万人講初発より講元へ隨身して、南都表に五ヶ年余罷居候内に (後略)」と鷲山氏の著作に出てくるように、弘化 2 年の 5 年も前から万人講に係っていたと思われる。その場合横曾根村の仕法指導より 2 年も前にあたり合点はいかないが一。そもそも庄七と勇次郎が秦野を出た目的もはっきりしない。万人講の勧誘は庄七と勇次郎にとって生業となり、それを主に生活していたことは、勇次郎の死後に庄七の依頼を受け、遠州の報徳社の人たちが文久 2 年に万人講を組織していることから推察できる。

安居院庄七にとって、万人講の勧誘や報徳仕法の指導は人生の大命であり、地元秦野では成す事のできなかつたものだった。おそらくそのために秦野と決別したのだと思う。それはひとつの覚悟ともいえる。秦野を出たあとも婿入り先の姓「安居院」を継承している。井上氏は『市史研究第 25 号』で岡田佐平治が初めて庄七とあった時、「あごい」と振り仮名をつけたことに注目し、元々の「あごい」が後に「あぐい」に変化したのではないかと推察している。しかし、もし庄七が地元の呼び名と相違した呼び名を自分の意思で言ったとしたら、やはり故郷を決別した庄七の覚悟と感じてしまう。

## おわりに

安居院庄七のことは、これから新たな事実が解明できる可能性を持っている。それには県内外の資料を細かく調査する必要があるが、多くの歴史事項がそうであるように長い歳月と研究する人の力が不可欠となる。次の時代へ継承していくことを心がけたい。

(文責 櫛田和幸)

## 活動紹介

### 歴史資料展 写真で見る軽便鉄道と軽便鉄道クイズ

平成22年8月1日(日)～31日(火)

市史資料室入口通路(はだのこども館内)

写真パネルとクイズで軽便鉄道の歴史を紹介しました。

はだの歴史クイズを同時開催しました。

\*同展示を南公民館にて、9月15日(水)～10月31日(日)に開催しました。



### ミニ資料展 秦野八景

平成22年9月1日(水)～10月31日(日)

市史資料室入口通路(はだのこども館内)

大正3年に「横浜貿易新報」に掲載された「秦野八景」の写真と記事を展示しました。

\*同展示を南公民館にて、11月1日(月)～12月8日(水)に開催しています。



### 本町地区の町並みを歩く4 ～レトロでモダンな建物～

平成22年10月9日(土) 本町公民館～本町四ツ角付近

本町地区の洋館や看板建築の店舗を訪ねて歩きました。



市史資料室には、皆さんのちょっとした疑問に答えてくれる、秦野の歴史や自然に関する本をはじめ、神奈川県史や県内・県外の自治体史などが数多く揃っています。

本の閲覧や貸し出し、秦野市史刊行物の販売などを行っています。どうぞお気軽にご利用ください。

